

久慈拓陽支援学校

研究テーマ

「一人一人の可能性を伸ばす授業づくり～三つの柱をもとにした目標立てから三観点での学習評価の取組を通して～」(2年次研究：2年目)

1 全体研究

(1) 研究主題設定の理由

前研究の課題として「新学習指導要領の内容についての理解が必要」であることや、アンケートから「新学習指導要領に基づく授業づくり」に関心が高かったことから本研究主題を設定した。本研究の取り組みにより、本校の教育目標達成に向けた教育活動の見直しを図り、授業づくりから学習評価までの実践を通してより新学習指導要領について理解を深める機会としたいと考えた。授業グループで研究グループを構成し、1年次は、三つの柱を念頭においた単元・題材の目標立てと内容、手立て・支援についての検討を行い、実践し、振り返りを行った。併せて、対象児童生徒に対する目標立てと学習評価について検討した。1年次を終え、三つの柱を念頭においた目標立てや三観点での学習評価が不慣れなため授業計画段階から不安を抱える職員が多いなどの課題が浮き彫りとなった。2年次は、年間を見通した授業計画が立てられるよう、行事との関連を加味した「年間授業一覧表」を作成したほか、研究対象授業で児童生徒が「目指す姿」について研究グループ内で共有した後、1年次を継承した研究を推進した。

(2) 研究の目的

新学習指導要領に沿った授業づくりと個別の指導計画の学習評価について研修しながら実践を重ね、「一人一人の可能性を伸ばす」教育活動について検討する。

2 研究方法

研究グループは授業メンバーで構成する。単元・題材シートと個別の評価シートを使用し、グループごとに授業計画を立て、実践する。単元・題材終了後には三観点での評価(単元・題材、個別)を検討する。研究対象の単元・題材や児童生徒は各グループで設定する。

3 各学部研究

(1) 小学部

前期は図画工作を取り上げ、低学団「夏の思い出を描こう」、高学団「拓陽スペースに行こう！」について、後期は音楽を対象として、低学団「リズムによって楽器を演奏しよう」、高学団「みんなで歌おう！鳴らそう！聞こう！」について授業検討と個別の学習評価検討を行った。単元終了後には学部全体で授業の様子を動画で見ながら、実践交流を行った。研究対象の授業以外では般化しきれていないといった課題が見えてきた。

(2) 中学部

対象授業を音楽とし、前期は「歌詞のイメージをふくらませて表現しよう」、後期は「ミュージカルのように楽しく表現しよう」を取り上げた。前期の単元は、第二回全校研究会の提案授業とし、学部職員外にも意見をもらう機会を作った。研究会で出てきた意見は後期単元授業を計画する際の授業づくりに生かすことができた。

(3) 高等部

1年次同様、作業学習を研究対象とした。年度当初に、作業学習で「目指す姿」について班ごとに検討・共有したことで、共通認識を持ちながら、授業づくりを推進することができた。一方で、行事に関わる授業時数の関係などから計画通りに進めることが難しかったなどの意見や目標立てと学習評価の仕方について不安を覚える職員がまだ多いことなどが課題である。

4 講演会

(1) 期日：令和4年7月27日(水)

演題：「各教科等を合わせた指導」の今日的な意義と実践的展開・その評価

講師：植草学園短期大学 佐藤 慎二 氏

参加者：約40名

(2) 期日：令和4年12月23日(金)

演題：「自閉スペクトラムのこどもの特性と関係づくり～自己肯定感を高めるような関わり～」

講師：NPO法人 夢 前田 淳裕 氏

参加者：約60名